

保育の計画と実践と評価

保育の計画と実践　　自己点検と自己評価

(研修俯瞰図　E 分野)

主題設定の理由

保育は、「計画」と「実践」と「評価」をサイクルにしてつくられていくことが基本であるが、そこで、あらためて私たちが、見直していかなければならないことがある。それは、保育の「良い計画」「良い実践」「良い評価」とはどのようなものなののかと言うことである。ただし、「計画」と「実践」と「評価」は、個別ばらばらに在るものでなく、互いに強く関連して成り立っている。従って、見直すことについても、三つを一体にして考える視点が外せない。つまり「計画」「実践」「評価」を、包括的に考えていく取り組みが必要である。しかし、包括的に考えると言っても、それらは、広範にわたり、何からどう考えて、どう見直すのかも、手がかりさえつかみにくい。そこで研修俯瞰図のE分野の内容から七つの観点を示し、考えていく「道しるべ」として進めたい。

- (イ) 幼稚園教育の基本である「幼稚園教育要領」の理解にもとづき、それぞれの保育現場の実態をとらえた「教育課程」の編成や「指導計画」の立案の在り方についての観点
- (ロ) 保育の質を高めていくためには、「保育記録」が「指導計画」や「保育実践」にどのようにつながり、生かされているかを考える「保育記録」と「指導計画」「保育実践」のかかわりについての観点
- (ハ) 「環境の構成」という幼稚園教育の要(かなめ)をとらえることをベースにして、「環境の構成」を「計画・実践・評価」へ位置付けていく過程を、深く考察していく観点
- (二) 子どもと保育者の関係性を深め、生き生きとした実践をつくりだすための保育技術の研修や教材づくり・教材研究を進める観点
- (ホ) 保育者自らの実践を、より自覚的なものにしていき、明日からの保育の改善に役立つ「自己点検・自己評価」を掘り起こす観点。私立幼稚園が、公教育としての「自己点検・自己評価」を確立していくうえで、欠かせない研究や学びが生まれてくるものを期待したい
- (ヘ) 他の保育者と、学び合い、共感し合う「保育の振り返り」が求められる。つまり

個々の保育の評価が仲間の間で練り上げられていくプロセスを現わしていく観点である。「同僚性」という言葉をキーワードに考え合いたい

(ト)主体的に学び続ける保育者を支える「研修」とは何か。保育の振り返りをもとにした課題から導き出される専門性を高めていく「研修」の在り方を考える観点

【研究の手がかり】

異なる園の教育課程や指導計画を持ちより、編成の実際を提示しながら、その課題を出し合い、課題解決のための協議や研究を行う。

さまざまな保育の実践記録を読み合うことで、良い記録とは何かを、明らかにしていく。

保育者同士で、保育における「環境の構成」という概念を、具体的な場面を通して、共通理解できるような事例検討をしていく。また、「環境の構成」をどのように教育課程や指導計画に反映させているかを、事例を通して学び合う。

保育現場で役立つ、さまざまな保育技術や教材を、幼児の発達に則して学び合う。

「自己点検・自己評価」の実際を数多く出し合い、その課題と成果をまとめる。

「園外研修」と「園内研修」に分け、研修の内容、研修の形、研修の課題などを出し合い、いま求められる研修の在り方を協議する。

(分科会等テーマ群)

保育の計画と実践

幼児の望ましい遊びと生活を考える

幼児の姿や保育記録にもとづいた計画と評価

幼児の育ちと教育課程の編成・指導計画づくり

園行事への取り組みと幼児・保育者の育ち

保育の実践を領域の視点でとらえる

幼児期にふさわしい体験や活動を考える

幼児の育ちを支える環境の構成

生き生きとした保育を行うための保育技術と教材

自己点検と自己評価

自己点検・自己評価の取り組みと課題

自己点検・自己評価の取り組みと学校関係者評価

同僚性にもとづく保育のふり返りと保育者の育ち

保育のふり返りを生かす計画・実践・研修

各地区独自の課題